

みなまた環境まちづくり推進事業

第2回「観光と公共交通円卓会議」（観光分科会）発言要旨

日時：平成23年11月10日（木）午後1時30分から午後4時

会場：水俣市役所 4階全員協議会室

坂本

エコパークを観光拠点とすることに疑問がある。汚泥（水銀）をプールした上にグラウンドやバラ園があるが、この状況は今後も継続されることが考えられる。そして活断層の延長線上でもあるこの不安定な状況のエコパークをどういうふうに捉えて観光の拠点としたのか？更に、道の駅もつくり観光資源のひとつのポイントとしたのはどういうことか？長期的なスパンで考えなければならないのに自分の言う心配事は踏まえてのことか？修復的なことは先日行ったがそれは一時的なものである。県では検討委員会なども進んでいると思うが、この状況を県がどのように捉えているのかということ踏まえた上でのことなのか？水銀処理という課題はまだ残っているが観光の大きなポイントとしてよいのか？その理由は？

厚地

ここは観光分科会の場合である。現状としてエコパークには多くの方がいらっしやっており、最近ではバラ園に来るお客様も増えつつあるが旅館に宿泊されたり食事をされたりしてお金を落としている。そういうことを踏まえて更に良くするという方法、というのがあるのではないか。こういった場所を観光的に扱うのはどうなのか？という今のような意見もあるかと思うが、ざっくばらんな意見をいただきたい。

吉永

坂本さんは「観光客に来てもらうには安全な場所として認識があるのか？」ということを知っている。集客交流や観光の場としてエコパークに来てもらうことは市としては構わないということであれば、工事の計画書の提出や知事の意見などを提出した上で納得してもらうようにしないとこの議論は終わらない。このことを片付けておかないとまずいのは？坂本さんの意見が正しいというわけではなく様々な意見があると思うので、「この場はこれでいこう」ということであればそれはそれで進めなければならないと思う。

原田

だいぶ認識がずれている印象。3本柱のタイトリングからして違和感がある。エコパークについて議論するという場合、ここをどういうふうな意味づけをしていくかということに対して、市民と行政と合意がとれているのか？エコパークを「汚染されている危険な場所」「慰霊の場」「観光スポット」「子供と遊ぶ場」と、各自捉え方の多様性がある中で、あえて観光拠点としてやっていこうということまで合意ができていないのか？そこをはっきりしていないとうまくいかないのではないか？突き進んでも反発をする人たちを取り残し

ていくとうまくいかないのでは？3番目の「環境首都水俣ならでは」ということについて、確かに環境首都の称号は得たが、まだ水俣病を経験した「水俣ならでは」のレベルではないか？このキャッチフレーズに対する合意はどうか？

厚地

確かにこれで良いのか？というのはあると思う。“観光拠点としてエコパーク活性化”というのは前向きな表現となると思うので、私が、先ほど申し上げたことと若干合っていない。それでいいのかということも踏まえて検討しましょうと申し上げた。この点はもう少し話し合う必要があるのではないかと思う。環境首都水俣というのは観光的な表現としてみていただければと思う。

古川

根本的なことではあるが先に進まないのでもう少し後で検討していただく。鹿屋のバラ園によく行くが、その下には何があるかとかではなくバラがきれいだという感想をもって帰ってくる。水俣は水俣病の教訓があるから少し違うかもしれないが、バラ園と市バスを出してエコパーク自体の活性化すれば、ということで私は話していた。坂本さんが言うように根本的なこと、水銀があるということはみんな知っている。観光の活性化ということで進めたらどうか？

厚地

とりあえず今日については観光の活性化ということでお集まりいただいているのでこれで進め、坂本さんからいただいた意見については後日私達のほうでも検討させていただく。

資料に関連しての各自の意見

厚地

各自提出してもらった棚卸しシートは非常に良い。今観光キャンペーンを10月からやっているがこれを事前に見ていたら、もっと内容が充実したものになっていたかもしれない。今日は提出してもらったシートについて、書き足りなかったところや書き忘れたところなどをお聞かせいただきたい。

松永

先日湯の児周辺のゴミ集めをしたときに、環境都市というわりにはゴミ箱の設置が少ない気がした。ゴミ箱と外見ではわからないような、ゴミを投げ捨てないような分別しやすいものがあればと思った。

水俣への理解を深めるために、まず自分達が水俣を見学するという計画をたててみたらどうか？

平田

観光百選、食べ物百選といった水俣独自のものがあれば良いと思う。それがあれば分かりやすいしお客様にも聞かれたときも説明しやすい。

厚地

大変良いアイデアだと思う。

平田

赤字で大変だと思われるが、果たして出し合った意見をやることが出来るのか？行政としては出来るか出来ないかを予算化のときに話をしていかなければならない。

厚地

着地型観光に関して言うなら、これをやりましょうとかあれをやりましょうといったときに果たして誰が連れて行ってくれるのですか？という話になる。しかもお客様が来てくれないと話にならない。また、旅行会社で売ろうという場合、売ってくれる旅行会社がないと話にならない。まず予算化するにしてもそれが売れるのかということがあるので非常に難しいと認識している。ここで話し合ったことで、これはやりましょう、予算化しましょう、関係機関に働きかけていきましょうということまで持っていければ・・・と考えている。

平田

時期を選ぶ（この場所に関しては春が良いとか）場所ではないほうがよいのでは？実際に自分が行ってみて「この場所は良いなあ」と感じないと外部には発信できない。あれもこれもではなく、行政側から「今年はこれをやります」といった具体的な方向性を示してもらいたい。その他に関しては何年後までなのかということを知らせてもらえれば待つことはできる。くれぐれもギリ貧になることのないように。

原田

「環境首都水俣」ということでちゃんと串刺しになっているのか？海と夕焼けを見てきたが建物をリフォームしたわりにはビニールクロスの壁紙、床もビニール。もっと自然素材を使ったほうが良かったのでは？アスファルトを敷き詰め固めた駐車場などには本来レンガやグリーンを使うなどもう少しナチュラルな感じにしたほうが良かったのでは？あれだけのスペースがすべてアスファルトではとても環境にやさしいというものではないし、使用したアスファルトの材質も浸透性の良いものではない様子。環境首都による環境の活性化になっていない。公費が投じられているがそのあたりの指導はどうなっているのか？おみやげ類も福岡のものや阿蘇、中国産のものが置いてあったが・・・。

厚地

公費が投じられているということはあるが、新しい企業に来ていただくということで結納

金のようなものである。実際は事業内容までなかなか口出し出来ないのが現状だが、今の
ような意見は伝えていきたい。ここでは着地型観光の推進ということなので、各旅館さん
に口を出して「こうしましょう」とかではないので、その点は若干ご期待に沿えないと
ころもある、ということをご理解いただきたい。

坂本

先日 NHK の仕事学でいかに地域振興をするかという番組をやっていた。そこでは地元の人
が何を考えどう望むか？ということが重要でそれをまとめて集約された形で良い地域振興
となっていた。湯出地区あたりでは会合を重ねていると聞いているが、それらを受け、参
考にした上でのこれらの資料となっているのか？これは非常に大事なことだと思うのだが。

厚地

湯出地区については今現在平行して動いている。着地型観光というとよく分からないかも
しれないが、例えば地元で山菜取りをしましょうとか、水俣に来ていただいて体験などを
してもらおうという、外から来ていただき水俣から出発するというのが着地型観光。こうい
ったことをいろんなところで考えて行こうという動きを今やっている。湯の鶴・湯の児で
も検討会を行っているので、いずれはこれを一本化できればと考えている。

古川

自分の身近な人（家族や親族）に紹介する観光スポットなのか？それとも外の人？

七滝はとても良い場所。

ちゃんぽんがおいしい。同期会のあと 3 軒お店に行きチャンポンばかり食べたがとても評
判が良かった。

木村

湯の鶴の再生に対する効果は？資料レベルで終わっているようだが。いろんな課題が出て
きていると思うがコーディネーターが入った部分などの取り組みはどうなったのか？

柏木

湯の鶴の運動公園の近くに小さな公園があり、そこは何にも使われていなかったが今はグ
ランドゴルフがさかんに行われている。市外県外からも来て使用。その後は温泉に入りう
なぎ屋さんで食事をしたり、湯の鶴の活性化につながっている。

矢筈岳はすごく良いのでこれをもっと活性化して湯の鶴につなげていく。

川上

温泉だけではなく自然を活かして子供や親が遊べる環境が必要。

水俣の海に潜ってダイビングしてみたら、透明度は沖縄のようにないが、生き物が多かつ
た。ダイビングだけではなくグラスボートなどいろんなものを活かしながら水俣の海を紹
介していくのはどうか？

山口

例えば新水俣駅に着いて湯の児までの道のりに沿っていくという流れの中で、近くに住んでいる方々に今の問題点を出して良くなる為の意見をもらうのはどうか？

西川

まず水俣の歴史を勉強しながら行わなければならないのに、湯の児だ、湯の鶴だ、という話になっている。また水俣に来たいと思わせることにつながるような案を各自が出し合うことが必要だと思うが。会議の進め方として、各テーブルに分けてそこでリーダーを決め話し合い、それから全体で話す、という流れだと全員が話せる。食べ物での観光はどこにもあるので、他の水俣の駅に下りてもらおうような観光アピールが必要。

厚地

出席人数に合わせて進行するようにする。今回棚卸しシートの中におもしろい意見がたくさんあったのでそれを皆さんと共有したいと同時にアイデアなども出していただきたい。）

久木野には800年前に高速道路「うまや」があった。こういったことは子供達に夢とロマンを与えることができる。

高倉

おススメはおれんじ館の裏にある広場。日除けなどはないが景色が抜群に良い。夕焼けの時間帯に合わせてみなくるバスを出してもらうなどがあると良いかなと思う。

植田さん

経済評論家の金子さんがおっしゃるには水俣のように山と海と川がひとつの市の中に揃っているのは全国でも数箇所しかいない。お金がかからないこの山海川をみていただくということで、例えば熊本城マラソンの開催が挙げられる。係員もボランティアで費用がかからない。参加費1万円でもすぐに定員になる。

原田

夕焼け横丁とおあしす。夕焼け横丁は昭和レトロで町並みが完結していておもしろい。安い。願掛け石。

宮本

湯の鶴の滝を見るウォーキング大会を実施した。帰りに温泉に入れるのが良い。とらやのようかんに水俣の紅茶を使っているのはすごい売り。もっとアピールしていったほうがよい。

坂本

外から来てお金を落としてももらうことが必要。例えば道の駅の自転車の貸し出しがあるがなかなか貸りている様子がみられない。もっとこういったことを充実させていくことで水俣の町が潤うのではないかな？

前田

20年ほどタクシー観光をやってきた。リピーターが少ない。新水俣駅から湯の児に行く道路などの眺めが悪い場所の木の伐採をすすめてもらいたい。本来は不知火海や天草が見てとてもきれい。

厚地

眺めは確かに悪い。和田岬や大崎ヶ鼻公園は来年から手を入れていこうかと考えている。その周辺については協力が得られればと考えている。

西

タクシー会社で以前ガイドドライバー制度をやっていたが、なかなか浸透していない。もっと水俣観光資源の掘り起こしなどをやっていきたい。タクシー会社としては水俣に来ていただいたお客様に悪い印象を与えてはいけなないので今後もおもてなしの研修をやっていきたい。湯の児でマリンスポーツなどこれからやっていけたらいいのでは？

山口

どこに行けば良い？と聞かれ困ってしまう。修学旅行に来た子供達が親を連れてもう一度来たいという夢のある町であってほしいと思う。

桑畑

湯の児の道に離合箇所があれば良いのでは？

ミシュランガイドで視察に来た際に頭石、石飛、久木野などをまわったが、質的にも非常に素晴らしいものであるという評価だった。大森地区の棚田や以前古い橋のかかっていたあたりやそこにある小屋なども絵になる光景なので、そういったものが朽ち果てていかないようにどうにかならないか？外国人が来た際にもわかる英語のサインや案内板などの設置があれば良い。以前、湯の会で作成した地域資源マップ、人材マップを利用してみるのはどうか？この人はこういうことが出来ます、こういう名人がいますよ、等の情報がたくさん出ている。

大山

水光社時代に広報を担当。観光に関して重要なことは外の人を水俣に呼び込んでお金を落としてもらい、いかに水俣が活性するかが重要。

湯の児の道路は観光バスが入れない。道の整備をするために行政が努力する。長島町などはきれいに整備されている。

“水俣の活性化基金”を創設してほしい。水光社時代にレジのうしろにペットボトルを置

いてみたら14日間で32万くらい集まった。水俣市内に置き換えて考えてみた場合300箇所は設置が可能。1年間で最低500万は集まる。そしてその集まったお金で行った事業を報告する。(例:道の整備をした、雑草の生えているところをきれいにする、など) そういったいろんな場所がきれいになっていけば観光客も来るのではないかな?

嶋田

老人会会長。水俣市にある52の団体に阿蘇・天草・鹿児島・宮崎などからチラシが頻繁に来る。水俣も観光宣伝が必要。

錦町から25名の女性の方々が水俣を訪問され案内した。チッソの排水のところから資料館、そのあとエコパークに行きまつぼくりに案内したところおみやげをたくさん買われた。球磨郡は海がないので恋路島の風景などとても感動されていた。こういったことが水俣にお金を落とすという行為につながるのではないかな。長島町の道路沿いの花が植えてある風景はとても良い。これは観光資源にもなる。侍・小田代地区の資源保存。

坂本

観光ということを考えてみたとき、リピーターを増やすような観光地づくりをするのが大切。バラやコスモスが咲いたときだけではなく年間を通じて来てもらえるような計画、30年、50年スパンで考えてみる必要がある。

吉永

スイーツ、ちゃんぽんの次は“洋食の水俣”でいくのはどうか? 東京から来た人たちにも文句を言われたことはない。

環境首都水俣の着地型観光ということでは、水俣のゴミの分別を実際に子供達に体験させている。料金一人2,000円だが良い経験になったと感謝される。やる以上は期限を決めて商品化を目指す。

中村晋

例えば水俣をバスでまわるとしたらバス停のマップはあるがむつかしいと思うので観光客視点の路線図などを載せてみてはどうか?“路線バスでまわるチャンポン”などといった提案ができればと思い独自で作成した。

団体旅行を案内するときに必要なのがお客様のニーズにいかに対応するか? 子供様、老人会など各団体に合わせて。社内で水俣紹介。湯の鶴・湯の児、スイーツ。

木村

水俣の祭り、イベントに関しては来て良かったと言われるように。リピーターにつながるように。